1. 今年度事業の経緯

里山フィールドで2006年(平成18年)より続けている里山保全活動を継続して行い、その場でプレーパーク事業「里山ガーデン子どもの冒険ひろば」の開催や子ども対象の活動を継続して行った。また春のサクラまつりやオープンガーデン等の花と緑を通した地域交流事業により、地域の住民や子どもたちに里山や身近な環境や科学に対する意識の向上を図ることを目的として事業を行ってきた。しかしながら新型コロナの感染拡大が2020年度内では収まらず多くに事業を縮小しました。また林田川では川を流れる取り組みを行いました。サイエンスカフェや子ども食堂の事業も中止やテイクアウトでの実施と縮小しています。当法人と一体となる姫ヶ丘緑の会の助成事業である里山の駐車場等の芝生化により姫が丘里山パークの公園としての整備を継続して進めることができた。また講師謝金補助や森の秘密基地づくりの事業も継続実施しました。

2. 事業内容

定款に掲げる特定非営利活動事業を中心とし、2020年4月~2021年3月の間に活動を行った。 事業は、①里山から里海までの保全活動 ②里山ガーデン子どもの冒険ひろば ③子ども食堂 ④サイエンス・カフェ ⑥姫が丘里山パークを中心とした花緑活動 ⑦連携教育活動支援 ⑧揖保川プロジェクトの実施 ⑨その他支援活動。

1 里山から里海までの環境保全活動(2006年開始)

毎月1回の定例のプレーパークに連携した里山整備を行った。里山整備の参加人数は1回あたり2-3名。 川の活動として2014年から協力を行っている身近な水環境の全国一斉調査を6月に須加院川及び林田川・揖 保川にて実施した。里川をフィールドとして保全活動を実施しました。



里山整備の様子、コナラの伐採の様子 捕獲したイノシシ



2 里山ガーデン冒険ひろば

兵庫県青少年本部の補助金により実施(1件の補助2014年度より継続)

プレーリーダー配置のイベント型プレーパークは原則毎月第3日曜日13時~16時開催。プレーリーダー配置な しで常時開催となっている。

「自分の責任で自由に遊ぶ」をコンセプトに、プレーリーダーのサポートのもと、子どもたちは里山を思い切り満喫。兵庫県青少年本部の補助金を活用したプログラムでは原則月1回プレーリーダーを配置してプログラムや冒険広場のエリア整備と自由プレーパークを実施。今年度はメインのプレーリーダーを中心にして、学生団体とともに企画運営を行いました。

学生プレーリーダーの参加はコロナで中止となり、連携活動は縮小せざるを得ませんでした。

参加者の子どもたちや保護者との交流により、学生にとっても参加者にとっても、大変学びの深い機会を提供できたと思います。小学校等へのチラシ配布はもちろん、継続と口コミ効果、SNS 拡散効果を合わせ、近所の子ども以外の参加者も増えてきました。

里山の豊富な資材と十分な広さにより、心身ともに解放される子どもが多くみられ、またプレーリーダーが 見守る安心感のなかで、初めて出会う子どもや学生同士ですぐに仲良くなり、参加者みんなが協力して1つの ものを作り上げたり、チームでゲームを繰り広げたりという姿も見られ、本来の人間関係とコミュニケーショ ンを学ぶ貴重な時間となったと思います。

新型コロナウイルス感染拡大により、子どもの休校措置がとられたため、緊急支援活動として特別プレーパークを実施しました。

プレーリーダー配置のプログラムは 53 回、参加人数のべ 709 名と例年の参加者数を維持している (学生主催の未報告分は除く)。常時開催の参加人数は未集計であるが総計 1000 名以上あると思われる。子どもだけで無く中学生の訪問も見られる様になった。中学生はサバイバルゲーム等を行って BB 弾を発射するなどしている。

体制としてメインプレーリーダー 1 名、プレーリーダー 2 名程度、随時協力するプレーリーダーの体制で実施。また城見が丘保育園園児の訪問や近隣の児童の訪問があった。



保育園児の訪問↑ プレーパークの様子

プレーパークの様子











■委託事業 兵庫県中播磨県民センターよりの委託事業 委託事業:環境学習に関わる他団体の講師派遣事業を兵庫県中播磨県民センターより受託し、事業を行った。

■参加者

小学生·保護者 11月22日(18名)、11月23日(22名)

■実施場所

「はりま里山研究所」および「はりま里山ガーデン」

④子ども食堂の開催

たつの市神岡町東觜崎の里山カフェで月1回の定例で開いている。親子のコミュニケーションの深まりや地域の交流を目指した活動である。コロナの関係で一部中止、主としてお弁当のテイクアウト形式で実施した。

⑤ サイエンス・カフェ

今年度はコロナの関係で5月16日 (Web)6月28日、9月6日、10月11日4回実施にとどまった。

⑥ 地域交流活動

花や緑を通した地域交流活動

2020 年 4 月 3 日「さくら・つつじ祭り」、2020 年 5 月 22-24 日「オープン・ガーデン」を実施したがコロナの関係で参加者はごく一部にとどまった。

⑦大学等との連携活動

兵庫県立大学環境人間学部のフィールドワーク(尾﨑教授)は Web で環境生物学実験 (大橋教授)は中止となった。 香呂南小学校、城見ヶ丘保育園、兵庫県立加古川南高等学校のフィールド活動支援等を行った。 10月28日から30日までの3日間行われた高校生対象のセミナーの様子。



⑧ 揖保川プロジェクト

コロナの関係で8月8日、林田川での川を流れるイベントとして実施。密を避ける活動を行った。

9 その他

ビブリオバトル甲子園の実施

2021年1月31日 オンラインにて実施、里山サバイバルクラブとの共催で実施。

研修会の実施 兵庫県青少年本部のプレーパーク研修会を8月28日に里山ガーデンで実施。

委託事業による里山体験学習活動詳細

環境に対する関心を高め、環境を大切にする心を育むため、青少年向けの体験型環境学習事業を開催する。

■内容

(1) 里山基地づくり

里山資源を材料として使用し、里山基地のプランを考え、設置作業を行う。

(2) 里山体験(自然体験)

里山資源を体験道具として使用し、自然体験を通じて、学びを実感する。

11月22日 集合前の様子



森の秘密基地づくり

5家族・グループでの基地の位置定めと素材集め(2家族連合もあり)



3. 事業の成果

- 1 これまで同様、里山の保全活動を行うことにより、森林の環境が保たれ、遊具の修繕により子どもも安全に遊ぶことができた。また、保全活動を定期的に行うことによって、地域の方の参加を得ることに繋がった。 里山だけでなく里川の再生を目指す林田川プロジェクト(揖保川プロジェクト)を継続できた。
- 2 環境学習では中播磨県民センターからの事業委託(2件)、による環境学習の実施や他団体の支援の活動が行
- われた。また学生に学ぶ場を提供し、社会での活動や学習体験の一助となった。 3 花緑の活動では姫ヶ丘緑の会と姫が丘里山パークの芝生化整備と一体となった里山整備を行うことができた。
- **4** 大学との連携では学生のコロナの関係で中止を余儀なくされた。
- 5 冒険広場では常設のメリットからか普段から子供たちが自然に訪れ、遊ぶ姿が見られるようになった。

4. 事業活動の問題点と解決策

専任の事務員がいないボランティア型 NPO の為、事務処理については理事長への負担が残っている。.

多くの事業が新型コロナウイルスの感染拡大防止を受けて中止となった。今後 Web 型の併用も検討する必要がある。参加費を頂く事業については今後は里山企画の事業として設定するなどして、NPO の直接事業から徐々に切り離していく必要がある。

子ども食堂についても NPO としては支援のスタンスで進めるが支援の主体は里山企画となる。

里山整備事業は参加者が少なく、広報の人的余裕もないため今後も対応を検討していく必要がある。 感染症の拡大継続により、今後の事業展開も縮小維持していくとともに Web を使った取り組みを初めて行く必要性も考えられる。